

連想

池田 隆

五十年前の大阪万博で初めて岡本太郎制作の「太陽の塔」を見上げた時、芸術的な感動よりはその「奇抜さ」に驚いた記憶がある。その印象は後々も長らく続いたが、ある時に縄文時代の土偶の写真を見て、その皿状の顔がよく似ていることを知った。彼は縄文文化をこよなく愛し、とくに諏訪大社の御柱祭では勇猛果敢な木落しに自ら参加したいと申し出たともいう。万博では世界に向けて日本古来の自然尊重の精神文化をしめすために、土偶をデフォルメすることを思いついたのかも知れない。

ベトナム中部のダナン市の西方六十キロのジャングルの中にあるミーソン遺跡を訪れたことがある。二世紀より十六世紀にかけて繁栄したチャンパー王国（林邑）の広大な聖地である。十九世紀末にフランスの考古学者によって発見された時には、特殊な形状のレンガを積み上げて出来た複雑な構造の建屋が何棟もほぼ完全な形で残っていた。ところがそれらはベトナム戦争時に米軍の空爆によって壊滅的に破壊されてしまった。現在は日本も含めた諸国の協力で一部復旧されつつある。それらを見た時、建築家ライトはこれをヒントに、「東洋の宝石」と称えられた独創的な旧帝国ホテル建物を設計したのではないかと推察した。

同様に大西洋に浮かぶスペイン領のカナリア諸島では、洞窟住居を見てバルセロナに在る曲線構成のグエル公園を、トルコの Cappadocia では林立する奇岩「妖精の煙突」を見てサグラダ・ファミリア教会を連想した。両者とも著名な建築家ガウディの作である。彼の信念は「自然の中に最高の形がある」とのこと。それを後に知り、自分の連想も全くの的外れではなかったようだと思堵した。

最初に出合ったときには「何！これ！」と驚くような独創的で奇抜な天才の作品も、その発想段階では意外と日常の「連想」がモチーフを得る手段になっている気がする。

われわれ凡人も創造性を発揮したい場合には、まずは何かを連想してみてもいいだろう。